



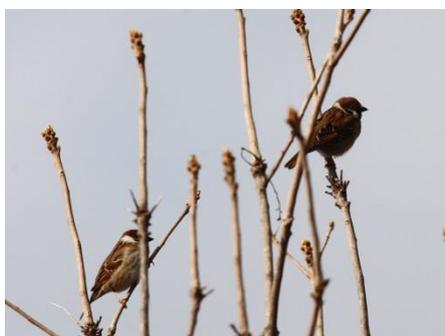
愛川ふれあいの村2月の風景

平成26年 2月 自然のたより

立春が過ぎ、暦上は春です。上旬にタンポポの花が咲き、春の始まりを感じたのも束の間、中旬には雪に隠されてしまいました。村内だけでなく雪化粧した仏果山・高取山も含め、銀世界が広がっています。冷えた朝晩には、軒下や樹木に垂れるつららができ、寒いからこそ見られる自然の造形美に出会えます。



くっきり残ったシカの足跡



丸い「フクラスズメ」



雪化粧をしたキンキョウ



サンショウの冬芽と葉痕



ヤマヤナギの冬芽と葉痕



ビワの葉痕



コブシの冬芽



花開いたタンポポ



雪の上を歩くキジバト



雪の重さで折れた枝



地面の水



鳥の足跡



タヌキの足跡



雪に沈む葉っぱ



樹木に出来たつらら

★いろいろな「顔」★

葉っぱが落ちた痕（あと）が顔に見えます。

2月の村は大雪に見舞われ、植物や昆虫たちはひっそりと息を潜めています。色々なものが雪に埋まっているように感じられますが、木の枝にまるで顔のような模様があります。

木の枝にある模様は「葉痕（ようこん）」と言い、葉っぱが落ちた痕跡です。目や口に見えるところは葉っぱが養分を送るための維管束（いかんそく）です。葉痕の上には、先月紹介した冬芽が出ており、春の準備をしています。葉痕は様々な形があり、植物の名前を知る手掛かりにもなります。

どんな顔があるか、探してみてもいいかもしれませんか？



★フィールドサイン★

雪が降った翌日、外に出てみると動物の足跡や爪痕、糞などが見られます。このような、動物たちが残した痕跡を「フィールドサイン」と言います。村内では、シカとタヌキの足跡をよく見かけます。

左下の写真のように楕円形が2つ並んでいるものがシカの足跡。「ハート」やじゃんけんの「チョキ」のようにも見える足跡もあります。タヌキの足跡はイヌの足跡に似ていますが、タヌキはイヌよりも足が短いので、足を引きずったような跡がつくことがあります。

足跡を観察することで動物がどこを歩いたのか、何を食べているのか、推察ができます。動物たちの姿を見られなくても、雪の上にある動物たちのサインを探して自然を推察する探偵になることができます。



▲シカの足跡



▲タヌキの足跡

アニマルトラッキング



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・葉青芳・大瀧裕基子

文章：葉青芳・大瀧裕基子

漫画・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・加藤文昭

愛川ふれあいの村
で、検索★

